

令和 7 年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	公明党		
事 業 名	先進地視察	北海道 苫小牧市	「中学校部活動地域展開」 について
事 業 区 分	①研究研修	②調 査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

市では、地域クラブ活動推進協議会を設置し、教育委員会が中心となって、令和 8 年度末を目標に協議を進めているが、指導者の人材不足と専門性の確保、施設や財源の確保、保護者・生徒の不安や教員の働き方改革との調整など様々な課題がある。先進地を視察して今後の取り組みに活かしていきたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	苫小牧市
令和 7 年 10 月 16 日 9 : 00 ~ 10 : 30	担当部局	苫小牧市教育委員会 教育部 学校教育課 部活動地域展開担当
報 告 内 容	1 市の概要	北海道南西部（札幌から南へ約 60km、新千歳空港から約 20km）に位置し、面積は、約 560 km ² で東京 2 3 区とほぼ同じ。人口 164,555 人（R7.8 月時点）で道内第 4 位。 1963 年に苫小牧港が築かれ、臨海工業地帯を形成し、石油精製などの工場が進出した。 財政力指数 0.77
	2 市の特徴	道内では積雪が少なく、比較的温暖な地域。現在は、自動車関連産業の集積が進み、製造品出荷額は道内 1 位。苫小牧港は、道の海の玄関として、カーフェリー、内外航定期コンテナ船など多数の航路を有し、取扱貨物量は全国 3 位、内買取扱貨物量は全国 1 位。全国一の水揚げを誇る「ほっき貝」の漁獲量は 24 年連続日本 1 位。また、1966 年に、全国で初めて「スポーツ都市宣言」を行なった。
	3 視察事項について	(1) 「とまこまい型部活動地域移行ビジョン」のロードマップ 令和 6 年度に、全 15 中学校で保護者説明会を行う。延べ 778 名の参加者。 個人競技種目等の完全地域移行と拠点校部活動方式の導入を決め、令和 7 年度から 9 年度にかけては、地域クラブ活動への移行成熟期として、活動実績をもとに、現有の地域クラブにおける活動および運営の軌道化を図る。並行して新規の地域クラブ・団体への協力依頼を継続していく。

(2)「とまこまい型部活動地域移行ビジョン」の具現化

① 地域住民・町内・企業等

指導者の発掘・派遣として市教委において新たに人材バンク「苦サポ！」設置。施設の利用、用具、楽器の寄付等の支援やスポーツ・文化活動を通じた世代間交流の促進を図る。

② 競技団体

活動希望生徒の受け入れ態勢の拡充と苦小牧市部活動ガイドラインによる適切な指導や各種指導者養成研修等の受講促進による指導者の確保を図る。また、学校・推進部署・家庭（後援会）・地域クラブ間の連携を強化する。

③ 学校

地域移行過渡期における文化系部活動の考え方として、吹奏楽・合唱などはコンクールなどの大会もあり、運動系と同様の展開が望ましいが、その他の文化系部活動は学校行事に関連があるのでサークル的な活動とするのか今後の課題だ。また、拠点校部活動における指導者・連絡員・練習会場等の協力をする。また、令和7年度から後援会費は廃止し部活動費を徴収する。中体連負担金などの経費は全額市が負担する。また、地域展開により学校では状況を把握しきれない可能性があることから、部活動地域展開担当の役割として、生徒の活動状況を把握して関係団体等との連携をとる。

④ 家庭

任せるから支えるへ！チーム後援会の組織と運営を行うとともに、大会運営業務の補助等も行う。

⑤ 行政

部活動地域コーディネーターを採用し、部活動地域移行推進部署の創設は、ともに令和7年から。全ての地域クラブの運営母体として「とまこまい地域総合クラブ」（仮称）を令和10年までに設立する予定。保護者の経済的負担軽減のため、家庭負担軽減措置については現在検討中で、毎月の活動費やスポーツ保険料への補助など、また、移動手段の支援などで AI オンデマンド乗合タクシーを考えている。教員の兼職兼業システム（報酬等）の確立や専門的指導者（部活動指導者等）の確保と各競技チームへの配置は令和9年度までに行う予定。また、受け皿となる地域団体との交渉を行なっている中で、小中一貫指導の取り組みも始まっている。令和3年度から6年度にかけて、部活動指導員配置事業を、国・道からの補助を財源に進め、決算額で約16.672千円。令和7年は部活動指導員配置もいれた中学校部活動地域展開事業費として約12.000千円を予算化した。

4 感想・市政に活かせる事

市の教育委員会が、「部活動地域展開アドバイザー（コーディネーター）」を採用し、学校と地域クラブ・競技団体など関係団体との連携や指導者の確保・情報共有などを一元的に行なっている点が素晴らしい。これによって、教員の負担軽減とともに、地域全体でこどもの育成に関わるという意識が高くなっていると感じた。

また、部活動の拠点校導入時に説明会を通じて後援会（チーム後援会）を設立して、保護者を中心とした安定した運営体制を整備している取り組みをお聞きし、さすが先進地だと思った。上田市が同様の取り組みを進めるためには、

コーディネーター機能の確立と、経済的支援策の整備、地域団体の育成支援などが重要になると考える。まずは、地域とともにこどもを育てるという理念を共有することが大事だと思う。

長期にわたり丁寧に計画的に事業を進めてきたことに敬服した。

学校との連携が地域展開のカギであることから教育現場を熟知した、関係団体とのスムーズな連携体制のとれる人材をコーディネーターに採用し、取り組みを進めていることが素晴らしいと感じた。

上田市においては短期間で進めようとしていることが懸念されるが、コーディネーターと専門部署を立ち上げて、そこが強いリーダーシップを持って取り組んでほしい。また、地域でこどもを育成するという共通理念のもとに、地域クラブの育成も重要で、その際は、国などからの補助金を使った財政的支援もしっかり考慮してほしい。

“こどもまんなか”の部活動地域展開になることを望む。

